

2024年度 学校関係者評価

学校法人松本学園・幼保連携型認定こども園さふらん

創立53年目、幼保連携型認定こども園として10年目の歩み

I. 理念・方針・目標

理念

“さばくは喜びて花咲き、さふらんのように、さかんに花咲き、かつ喜び、かつ歌う”(旧聖書)の言葉のように、幼稚園も社会も、愛と平和と希望の、美しい花園になるように、と願う

方針

キリスト教精神に基づき、より良い環境と自由な雰囲気の中で、子どもたちの個性と可能性を伸ばし自主性(意欲)と協調性(思いやり)、創造性が育つよう支えていく

互いの違いを認め合い、(ハンディのあるなしに関わらず)共に育ちあう事を大切にする

目標

「いつも元気で、みんな仲良く」育ってほしいという願いをもって日々の保育に取り組む
(自立・自尊・自信→いつも元気で 協調・協力・調和→みんな仲良く)

学年の重点

1歳児	園で安心して過ごし、人に対する信頼関係を築く	} 見ていて下さる神様
2歳児	自分で様々な事をやろうとする(依存から自立へ)	
満3歳児	幼稚園で安心して過ごす	
年少組	1人1人が自分の遊びを充分楽しむ	守って下さる神様
年中組	友だちと関わりながら遊びを楽しむ	愛して下さる神様
年長組	友だち同士認め合い自分らしさを発揮する	共にいて下さる神様

II. 本年度の重点目標

- ①ひとりひとりの成長をしっかり把握し、保育者の思いや園の方針を伝えることで、園と家庭が協力して子どもの成長を支えていく。
- ②ひだまり保育を利用する人数が増えてきているだけでなく、利用時間も長くなってきているので、落ち着いて過ごせる環境作りを考え、行っていく。
- ③教職員それぞれが園内研修・外部研修を通して学んだことを保育に生かすことで保育の質を高めていく。

Ⅲ. 評価項目の達成と取組状況

評価の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた
C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	評価内容	取組み状況	自己評価
保育計画	発達段階に則した適切な幼児理解と環境整備が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導案などの保育カリキュラムは毎年、年度初めに見直し、保育環境や子どもの成長段階に応じて、作成している。今年度は子ども達の姿に応じて、より丁寧にひとつひとつの経験を積み上げたことで成長につながった。 月案や週案は、各学年の担任やフリー教諭が話し合い、計画・作成している。月毎に反省をし、翌月の計画につなげるだけでなく、学期の終わりには全体で振り返りを行い、教職員全体で子ども理解ができ、見通しをもって保育ができています。 ひだまり保育についても、にじの時間を踏まえた上で各担当が月毎のカリキュラムを計画・作成している。少人数で個別に力を伸ばす時間にもつながっている。 	A
	子どもが自ら興味あることや好きなことを見つけ、意欲をもって取り組む保育が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が興味あることや好きなことを楽しめるように、子どもの様子に合わせて、コーナーや遊びの環境を設定している。子ども達が生き生きと楽しみ、自ら様々な活動に取り組む姿が見られた。 年長組は、ひとつひとつの活動に自ら意欲的に取り組もうとする気持ちが強く、成果が目に見えるチャレンジカード等を取り入れることで、逆あがり、縄跳び、コマ回しなど、友達と声を掛け合いながら、ほとんどの子ども達ができるようになった。 日々の活動に子ども達の興味あるものやわかりやすい内容を活動に取り入れることで、自発的に楽しみながら参加している。 	A
	子どもが主体的に参加し、成長につながる行事の取り組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 5月に、年少組と年中組で親子遠足を計画。年中組は雨で園内でのレクリエーションになったが、新しいクラスでの親睦ができた。年長組は多摩動物園に行き、各クラスでいろいろな動物を見て回り、楽しい時間となった。 7月には、年長組が大地沢で1泊2日のサマーキャンプを行っている。保護者と離れて泊まる経験が、子ども達にとって大きな自信となった。 年少組のわくわくデーは「はらぺこあおむし」、年中組のサマースペシャルデーは「夏祭り」をテーマに、子ども達と話し合いや準備を進めたので、当日はその世界に入り込んで楽しむことができた。 運動会では年長児が他学年の子ども達にダンスを教え、一緒に踊る姿が見られた。そのような経験や凧作り、お店屋さんごっこ、飼育の引継ぎなどを通して、年長組に対して親しみや憧れの気持ちが芽生え、次は自分が…という思いに繋がっている。 プレイデーでは各学年、様々な素材や表現方法を使い、その子なりの表現を楽しんでいる様子や作品を、親子で見る機会になっている。 クリスマスは、年長組と年中組は1クラスずつ一緒に、年少組は3クラスで礼拝とページェントを行い、保護者も参加してお祝いした。さくらんぼ組は、親子で礼拝、祝会をし、クリスマスの意味を知ることができた。 	A

	園と小学校の円滑な連携の取り組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、本町田小学校や本町田東小学校に園だよりを送付している。本町田東小学校からは学校便りが届き、やりとりができています。 6月に町田第三小学校より、“服のチカラ”プロジェクトへの協力依頼があり、6年生が何度か来園したことをきっかけに、2月に6年生と交流することができた。教室での授業体験、6年生に校舎内を案内してもらおう等、進学に向けて小学校生活を知る良い機会・交流となった。 市主催の幼小連携連絡会に出席し、近隣の小学校や保育施設と幼小連携について情報交換や理解を深めている。 アプローチカリキュラムを作成し、年長児が進学する各小学校に送付している。小学校からもスタートカリキュラムが送られてきている。 	A
情報提供	地域、関係機関への情報発信が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援に関する情報をHPや町田市の子育てカレンダーに載せている。外向けの掲示板には、市のお知らせの他に子育て相談にも応じる旨の掲示をしている。 HPに在園児向けのブログの他に、外部の方向けに園紹介を目的としたブログを作り、園の様子を発信している。 	A
	ドキュメンテーションの取り組みは充実しているか	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ内のブログを定期的に更新し、保護者に園生活の様子を伝えている。 各学年、写真入りのクラスだよりや学年だよりを発行し、子ども達の様子を伝えている。 給食のメニューは毎日、写真入りで玄関のところに掲示しているので、帰り際に見て親子で会話を交わすきっかけになっている。 	A
	保護者との連携は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> 父母委員会の定例会に、担当職員が出席し、園の様子を伝えたり、父母会運営やサークル活動に関して意見交換を行っている。 サークル活動のお知らせや勧誘をれんらくアプリでのメール配信することにより、より多くの保護者に周知できるようになった。 今年度は、未就園児クラスを対象にコンサートや劇の公演、入園時に必要なグッズ販売を行うことでサークル紹介の機会となった。まごころサークルは、オープンチャットを開設。コンサートや劇の公演、読み聞かせ、お楽しみ会など園の子ども達に向けての活動も精力的に行ってくださり、子ども達も楽しく参加する姿が見られた。 クリスマスでは、絵本バザーや手作り作品バザーを通して献金につなげてくださっている。 子どもの成長に関する園の方針や思いは園だよりや懇談会で伝えている。 	A
保健衛生安全管理	危機管理体制の整備は充分か	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、園内の設備や遊具の安全点検を行い、必要に応じて修理を行っており、今年度はレッドスピンの修理を行った。 地震や火事を想定した避難訓練を毎月、不審者対応訓練を年2回、行っている。 1月にさふらん号が事故にあい(園の過失はない)、修理にすることになったが、すぐにワゴンタイプのバスを借りることができ、保護者の協力もあって通常運行できた。 温暖化防止の一助として太陽光パネルを9月に設置した。 	A
	感染症についての対応は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> 手足口病やインフルエンザに罹患する子ども達が増えてきた段階で保健だよりをメール配信し、注意喚起をした。感染症を広げないように、登園の基準をしっかりと伝えていく必要がある。 	B
	保健衛生に係わる情報を適切に保護者・職員に提供できていたか	<ul style="list-style-type: none"> 登園許可のいる疾病やインフルエンザの感染状況は、事務室のホワイトボードに記入し、全職員で共有している。 感染症が流行った時や検診の後などに、保健だよりを発行し、保護者に情報提供している。日々の欠席者の症状別の内訳は、れんらくアプリから保護者も確認できるようになっている。 	A

	教職員間の共通理解が出来ていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・会議で決まった事項などは議事録として、全教職員にメール配信して伝達している。保育人数が増えているため、今年度は、ひだまり担当が会議に参加するのが難しくなりましたが、各学年の教師に聞くなどして共通理解できている。 ・学年便りや行事の詳細、連絡事項等は必要に応じて、事務室のホワイトボードに掲示し、必要な時に必要な情報が伝わるようにしている。 	A
研修	教職員の資質向上の為に研究・研修が充実していたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末と2学期末の土曜日を全職員出勤日とし、1学期末は佐藤剛彦先生による子ども理解、2学期末は桜美林大学の柿崎次子先生による音楽療法の話を伺い、違う視点での学びができた。 ・夏休みには島田由実さんに、ひだまり3学年それぞれに応じた製作活動の指導をしていただき、普段できないダイナミックな活動に子ども達も楽しんでいました。 ・外部研修およびキャリアアップ研修に多数参加している。報告書を作成し、誰でも閲覧できるようになっているが、昨年同様、それぞれ学んできたことを共有する機会を持つことがなかなかできていないため、職員会議の持ち方を考える。 	B
特別支援	特別支援教育についての取り組みは適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりに適応したフォローができるように、教職員間で情報を共有し、クラスや子ども達の様子に応じて、保育の環境や過ごし方を変えるなど柔軟な対応ができている。 ・昨年度に引き続き、佐藤剛彦先生に月2～3回のペースで来ていただき、継続して子どもの様子を見た上で助言、指導してもらっている。また、さふらん会への参加、希望する保護者との面談を行うことで、保護者支援となっている。 ・療育機関とそれぞれの情報を共有するなど連携している。 	A
キリスト教保育	子どもにキリスト教精神を伝える取り組みができていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、入園、進級当初に各クラスで礼拝を行った。『おはなしのこみち』の本を元に、身近なエピソードから子ども達と考え、対話でき、大事なことが伝わりやすかった。また、初めてキリスト教に触れる子ども達にとって、神様のことを知る時間となった。 ・年中・年長組は月に1度、鶴川教会の瀬戸牧師より話をしてもらうことで、キリスト教についての理解を深める機会となっている。 ・瀬戸牧師を招いて、年2回教職員研修を行っている。今年度は、「礼拝計画と新訳聖書について」「クリスマス、献金」をテーマに、経験談やワークショップによる意見交換を行い、理解を深めることができた。また、キリスト教保育連盟に加入しており、連盟主催の研修にも参加している。 ・感謝礼拝やクリスマス等のキリスト教ならではの行事を通して、感謝する気持ちや思いやりの気持ちを育てている。 ・年長組は3学期に、鶴川教会へ行き、教会の厳かな雰囲気の中で礼拝を行っている。 ・感謝礼拝、アドベント礼拝、鶴川教会での礼拝の折には、希望する保護者が参加できるようにし、子どもと経験を共有する機会を設けている。 	A
乳児保育	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児12名。2歳児は4名の新入児が加わって16名。子どもの人数や様子に応じて、フリーやパート保育士が入り、月齢やひとりひとりの成長段階、子どもの気持ちに寄り添って丁寧に関わることで、信頼関係を築き、安心して過ごさせている。1歳児は、月齢が低いので、より丁寧に配慮をしながら保育を行っている。 ・クラスの子どもの様子を理解し、成長に繋がるような保育内容や環境づくりができている。2歳児クラスでは、3学期から、さくらんぼ組との交流を増やしたり、お昼寝の時間を遅くするなど、幼稚園にスムーズに移行できるよう配慮している。3月のおおきくなったねの会後からは、4月に向けて生活する場所を変えて、新しい環境に慣れるよう配慮している。 ・遊具や室内設備の点検・消毒をこまめに行っている。 	A

<p>預かり保育</p>	<p>ひだまり保育の充実の為に取り組みが出来ていたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新2号認定の子ども達も増え、年々、1日の利用人数が多くなり、ひだまり保育の重要性も高くなっている。にじの時間とひだまり保育の連携がスムーズにいくように、ひだまり担当教諭もにじの時間の保育に入り、個々の子ども達の様子を把握するようにしている。 ・夕方になると、子ども達も疲れてくるので、人数が多い年少組は2クラスに分けるなど、利用する子ども達の様子によって落ち着いてゆったり過ごせる環境作りや配慮ができていた。 ・3学年の担当が毎日、午後の過ごし方等を共有、相談することで縦関係のつながりもできている。年少組は、日替わりで2～3人短い時間ではあるが、年中組と一緒に過ごす機会を作り、進級に向けて気持ちが向くような取り組みも行っている。 	<p>A</p>
<p>子育て支援</p>	<p>保護者のニーズに応じた子育て支援ができていたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの開催、体験保育を行う。 ひつじ組(2歳児クラス)は今年から1クラスになり人数が多くなった分、子どもも保護者も顔見知りになり、良い関係作りができています。 ・今年度より、さくらんぼ組在籍前の週3回を一時預かりとする。保護者にも丁寧に説明、対応したので、混乱することもなく、さくらんぼ組への移行もスムーズだった。 ・月に7～8日程、未就園児クラスの子ども達を中心に一時預かりを行った。繰り返し利用する家庭も多く、入園前に園生活に慣れる機会となっている。 ・地域の未就園親子を対象に園庭開放やイベント(リトミック・親子ヨガ・センサーボトルづくり)を実施。参加者も多く、親子で幼稚園で過ごす良い機会となった。 	<p>A</p>
<p>食育</p>	<p>子どもに対して適切な食育をしているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の食材を取り入れ、行事にちなんだ献立を提供しているので、食事を通して季節感を感じることができている。また、年度末には、リクエストメニューということで子ども達の意見が反映された献立が出るので、食べる楽しさや喜びに繋がっている。 ・年少組の3学期からご飯の配膳、年中組からは食事の配膳を自分で行うことで食べられる量がわかるようになっている。また、食事の姿勢、箸やスプーンの持ち方などこまめに声掛けするだけでなく、学年だよりなどで家庭にも伝えている。 ・食べようという気持ちを高め、食事が楽しみになるよう、食べきれぬ量にしたり、苦手な食材を減らす配慮や声掛けをするだけでなく、食べられた事に対して褒めることも大切にしている。 ・園内の花壇で野菜を育て、水やり等の世話をすることで生育を喜んでいる。今年度は、年長組がパプリカ、枝豆、ミニかぼちゃ、とうもろこし、オクラ、メロン、すいか、年少組は小松菜を育てた。中にはうまく育たない物もあり、栽培の難しさを感じることもある。 ・ナーサリーりんご組から年長組まで全クラスが上川さんの畑に行き、収穫体験を行い、土に触れる良い機会となった。今年度は年長組がサツマイモの苗植えもしたので、より収穫の喜びにつながった。 ・感謝礼拝やシエラレオネの話を通して、食に対する感謝の気持ちや残さず食べる気持ちを育てている。 	<p>A</p>
<p></p>	<p>アレルギー対応は適切に出来ているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーがある子については、年度初めに全教職員に口頭説明、プリントなどで周知している。 ・なかよし給食(乳・小麦・卵を使用しない給食)、魚アレルギーに加え、果物のアレルギーを持っている子が増えてきており、献立によって代替の物を提供している。その際は、誤食がないよう、食器の色を変える等、細やかな配慮で全園児が安全で安心かつおいしい給食を食べることができている。 ・アレルギー対応で不足しがちなカルシウムやたんぱく質を他の食材で補えるよう工夫している。 ・プレイデーやクリスマスのケーキは、アレルギー児向けに米粉などの代替食材を使って、キッチンで焼いたものを提供している。その際も、渡し間違いがないよう、教職員で共有し、札をつけるなど配慮している。 	<p>A</p>

IV. 総合評価

〔総合評価〕A

- それぞれの教師が子ども達ひとりひとりの様子を把握し、担任と連携して個々の力を伸ばす関わりができていた。各学年、子ども達の成長段階に応じて、保育計画や日々の保育内容を考え、丁寧に経験を積み重ねることで、子ども達が持っている力や自分の思いを自信を持って発揮する姿が見られた。
- 小学校からの“服のチカラ プロジェクト”を通して、年長児と小学生が交流する機会につながった。小学校生活を知り、入学することが楽しみになり、受け入れてくださった小学校に進学する子ども達の様子も直接知ってもらうこともできて良い形での幼小連携となった。
- 今年度も子ども達が様々なことに興味、関心を持ち、世界を広げることができるよう、誕生会での楽器の生演奏やテニス、ダンス体験、実験教室など本物の体験をする機会を多く作る事ができた。

V. 今後の課題

- 集団での活動と少人数での個別活動をうまく取り入れ、個々の成長につながる環境作りをしていく。
- クラス運営をしていく中で、声かけや支援の必要な子ども達が増えてきている。今年度の保育を生かし、クラスや担任だけでなく、園全体のこととして考え、支えていく体制作りを行っていく。
- 小学校との定期的な交流を続けていく。
- 時代や生活に関する変化を捉え、家庭と園が心を合わせて子育てできるように、引き続き保護者と話をする機会や園からの発信を続けていく。
- 運動会とプレイデーの日程が変わるので、保育をする中で子ども達が無理なく取り組めるよう検討しながら進めていく。

VI. 父母委員の皆様からのご意見

- 年少おままごとコーナーの冷蔵庫の角が子ども達に当たると危ない。 → すぐに角を削りました。
- 園内がいつもきれいで落ち着く。子ども達が集中して遊ぶことのできる環境にも繋がっている。
- 危機管理体制の部分で、HPの写真掲載に関して入園前の確認・サークル活動報告などで子ども達の顔が載らないようにするなど個人情報管理を見直す必要があるのではないかと。
- 園長先生が毎朝、握手をしてくれるところに人と人のつながりが感じられて感謝している。
- ナーサリーから年長まで、見通しをもって計画が立てられていて、保育のつながりが感じられる。
- また、個々で過ごす時間とクラスで過ごす時間のバランスが取れている。
- 入園承諾書に「喜んでお迎えます」の一文があるだけで、親は安心して託すことができるので続けてほしい。
- 先生たちの負担が大きくなるような良い雰囲気の中で楽しく保育できる環境作りを続けてほしい。
- さふらんは、担任制であり、チーム制だと感じる。どの先生も子ども達のことを把握しているので担任が休んでも子ども達が不安になることはないのでは安心して送り出すことができる。

他多数のご意見をいただきました。今後の保育に生かしていきたいと思っております。

VII. 学校関係者評価委員会の意見(現父母委員3名、卒業生保護者1名、近隣の有識者1名)

- ① 幼少期にいろいろな体験ができるように準備されていること、また、子ども達のやる気も引き出すような促しのある教育体制が素晴らしい。
- ② 今後のサークルの在り方について懸念している部分(メンバーがなかなか集まらない、サークル自体の存続など)があったが、園長先生から直接その事についてお考え(これまでもメンバーの増減はあったが長く続いていること、その時々状況に合わせて柔軟に活動していけば良いことなど)を聞くことができたので安心した。これからも可能な限りサークルは続けていってほしい。
- ③ 小学校に上がっても、幼稚園時代の保護者同士のつながりで助けられることもあるので、サークルや懇談会などこれからも続けてほしいと願っている。
- ④ 園からの情報・思いを保護者と共有するための在り方や保護者と話す機会の持ち方を考える必要がある。
- ⑤ ひだまり16:30のお迎えで渋滞が発生していて、近隣の方々にご迷惑をおかけする可能性がある。園から「可能なら16:30前後を避けてほしい」旨を伝えても良いのでは。

【園としての対応】

- ④について
他にも、れんらくアプリで配信される“園からの連絡”と“サークルの連絡”が混同していて分かりにくい、配信される手紙類は3ヶ月経つと見られなくなるといった意見もありました。
来年度からは、れんらくアプリにお知らせ欄を作成し、園だよりや学年だよりを1年通して見られるようにする方向で検討しています。また、行事のお知らせ等は、今後も紙配信する予定です。
- ⑤について
園としては 16:30前後にお迎えの方で、ご協力いただける方は、さふらん駐車場に止めて来ていただきたいと思っています。ご不便をおかけしますが、よろしくお願い致します。